

**節分の由来**

節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを言います。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り返し目として3日ごろに行われています。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺や年男たちが豆をまくところもあります。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられていたからです。

いわしの頭を家の入り口に刺したり、柵の木の枝を刺したりするのは、鬼はいわしが嫌いなので逃げていくため。柵は、枝にとげがあるので鬼が恐れているからだとされています。

保育園でも豆まきをしますが、自分の心の中にいる“ちょっぴり意地悪鬼”“泣き虫鬼”“怒りんぼ鬼”などを追い出して、元気な子どもに成長してくれることを願っています。

ふれあいの部屋

お仕事帰りにホッと一息。温かい飲み物と保護者の皆さん、担任たちとの楽しいおしゃべりで、リフレッシュしていただけたらと思います。

こあら、こじか組

日時：2月24日(水)午後4時30～
場所：1階 プレイルーム

進級説明会

来年度4月から第二みみょう保育園に進級するきりん組保護者の方に、幼児組の生活の流れなどをお話します。ぜひ、ご参加ください。

日時：2月18日(木)
1回目午後4時30～
2回目午後5時30～
場所：1階 きりん組

**平成28年 2月の園だより****「雪の日に思うこと」**

大寒は過ぎたものの、過去最強クラスの寒波が襲来し、広島でも積雪がありました。お仕事に向かわれる際には、皆様ご心痛だったことと思います。

子どもたちはというと、さして「さむい」と言ってぐずる子もおらず、元気に登園してきてくれました。さすが『みみょう』の子どもたちです。その日は公園、園庭、屋上と、どのクラスも、ほとんどの子がお外の雪に触れて遊びました。雪国の方には申し訳ないくらい、珍しい雪におおはしゃぎの子どもたちでした。

1歳児は、雪に触れると、まず「冷たい」と言いますが、2歳児クラスの子もたちは、じっくり触り、「さらさらしとるね」「ぎゅっとしたら、かたくなったよ」とか踏み固めた雪をひろって、「おせんべいみたいね」などと感じたことを言葉にしました。ただただ触っているのではなく、触りながら五感をフル回転させ、感じながらも同時に、例える言葉を考えているようでした。また、触った感触を楽しむ1歳児クラスの子もたちは、「○○ちゃん、おおきくしょう!」と、お友だちを誘って大きな雪だるまを作ろうとしていました。あそびに明確な目的が発生しているのです。そして、おかあさんがお迎えに来られた時に、庭に降ろした雪だるまを見せて、「みてみて、○○ちゃんをつくったんよ」と、嬉しそうに話していました。このように、年齢によっても発達の違いがあり、さらに一人

ひとり様ざまな姿があり、とても興味深い雪あそびでした。

先月も、子どもが自ら物や人に関わりながら、積極的に遊ぶことの大切さをお話しましたが、これからの教育・保育は、「非認知能力」、「社会情動的スキル」を育成することが中心的なテーマになっていくと言われています。「非認知能力」、「社会情動的スキル」は、ともに同じような意味で、「学びに向かう力や姿勢」と言い表し、「物事に興味、関心をもち、粘り強く仲間と取り組むこと」が、その姿と言えます。

それは、0.1.2歳の乳児期であっても、子どもがおもしろいと感じたり、関わったりしたくなる素材をふんだんに用意することとともに、保育者が子どもの遊んでいる姿や、つぶやいている言葉、じっくりと考えている様子を見守り、あそびが続いたり広がるように言葉を添えるなど支援することによって、その力や能力の基礎を培うことができていると思っています。

日々のあそびとともに、自然現象なども、良いチャンスです。子どもたちが一面に積もった雪を「わあっ!」と驚き、触ってその感触を楽しみ、溶けると不思議がる…。どんなことでも学びにつながるということを常に考えて、子どもたちにとって最善の保育を心がけていきたいと思っています。

お子さんと遊ぶとき、大人であっても様ざまな物や、こと、自然現象などに驚きと感動を持って楽しんでいただけたらと思います。大好きなお父さん、お母さんに遊んでもらうひと時が、何よりも幸せな子どもたちなのですから。

みみょう保育園 園長

子育て応援コラム**『絵本と子どもについて』**

- ① 子どもにとって絵本は役に立つ、ためになるといったものではなく、“**楽しみそのもの**”だということ。一冊の絵本が、子どもに与える楽しみと喜びの大きさによって、その中身は深く心に残り、子どもを本好きにする原動力となります。
- ② **絵本は、子どもに読ませる本ではなく、“大人が子どもに読んであげる本”であること。**絵本を読んであげる事が、子どもの成長に大きなよりどころを与えます。絵本は親と子が心を開き、通い合わせる心の広場です。
- ③ **子どもが好きな絵本は繰り返し読んであげる事。それが読書への大切な入口です。**読書は字を読む事ではなく、一冊の本の中へ夢中になって、我を忘れて入り込み、楽しむことです。
- ④ **絵本は読みっぱなしで良いのです。読み終えた時にあれこれと質問して無理にわからせようとしないこと。**一冊の絵本を読み終えた時の喜びや満足感を大切にすることが読書の楽しみです。

心を込めて絵本を読んであげてください。その時、子どもはあなたの方に心をいっぱい開き、耳を傾けてあなたの言葉を聞くでしょう。自分に向いているあなたの愛情をいっぱい感じるでしょう。それが親子なのです。子どもたちは、絵本の読み聞かせて、多くの喜びと楽しみ、幸せを味わう事ができ、その幸せを与えられた子どもは、自らの幸せをしっかりと築き上げ、人とそれを分かち合える人間に育つのだと思います。

福音館書店発行「絵本の与え方」より
福音館相談役 児童文学者 松居 直

寒さが続いて、お外に出られない日や、お休み前のひとときは、親子で絵本の世界を楽しませてはいかがでしょうか。



**消さないで
あなたの心の
注意の火**

広島市南消防署 防災課 救助係